



学校だより

子どもの「やる気」を育てます

10月号 令和7年9月30日
 西東京市立保谷第一小学校
 校長 原 之 雄
 〒202-0004 西東京市下保谷1-4-4
 TEL042-422-4513 FAX042-424-7117
<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-houya/>
 e-mail e-houya1@nishitokyo.ed.jp

保谷第一小ホームページ
 QRコード



「準備」を誇りに

教務主任 加藤 友樹

6年生が先週、2泊3日の赤城移動教室に行ってきました。とはいえ、締切の都合上、この原稿を書いているのは出発前日。「どんな3日間になるのか・・・」「無事に全員が笑顔で帰ってくるのか・・・」と、担任の一人として期待と不安に震える手でキーボードを叩いています。

しかし、2学期が始まってからここまでの約3週間、6年生たちと共に、最高の移動教室になるようにと精一杯準備を進めてきました。実行委員や各係に分かれた子どもたちは、小学校生活でたった一度しかないこの宿泊行事を充実したものにするために、短い準備期間でたくさんアイデアを出し、それらを形にするために話し合い、まとめ上げてきました。家庭を離れた不慣れな環境で、自然に囲まれて生活する赤城での3日間は、天候や自然条件など不確定要素も多く、場合によっては準備したことが出し切れないこともあるかもしれません。どのような3日間になったとしても、ぜひ子どもたちには、「悔いのない準備をしてきた」と胸を張ってやりとげてほしいと思います。そして、スポーツデーや保一作品展など、この後にも大きな行事が控える今、「準備」の価値について、子どもたちと一緒に、あらためて目を向けていきたいと感じています。

さて、「価値ある準備」とはどのようなものでしょうか。話が変わるようですが、『ブライトンの奇跡』と聞いてピンとくる方はどのくらいいらっしゃるでしょうか。ラグビーワールドカップ2015。日本代表が大方の予想を覆し、優勝候補である強豪国・南アフリカに接戦の末勝利した「スポーツ史上最大の番狂わせ」とまで評される試合を称えた言葉です。この一戦から9月でちょうど10年になるということで、高校時代に少しだけラグビーをかじっていた私は、いくつかの関連記事を読みました。読んでいて気が付いたのは、インタビューに答えるコーチや選手たちが皆、「練習」という言葉をほとんど使わず、代わりに「準備」という言葉を多用していたことです。そして、あの歴史的勝利の勝因について問われると、「正しい準備を、チーム全員で積み重ねてきたことで自信をもってプレーできたからだ」と答えていたことも印象的でした。記事は、「勝利そのものもそうだがそれ以上に、ハードな準備をチーム一丸となって行うことができたことを誇りに思う」というような言葉で締めくくられていました。

様々な取組について、私たちはついつい「結果」にのみフォーカスを当ててしまいがちです。そして、「結果」がよくなないと、それまでの「準備」すら無価値だったと、そんなふうにも考えてしまうかもしれません。子どもたちの様子からも、そのように捉えていると見て取れることがあります。もちろん、「結果」を踏まえ、そのための「準備」が適切だったかの検証は必要でしょう。しかし、「準備を重ねて自信を付けること」、言い換えれば「自信になるほど準備をやりきったと言えること」には結果如何を超えた大きな価値があり、そのような経験は、今後他の様々な場面でも子どもたちを支えてくれるに違いないと信じています。

学習の発表の機会が多い2学期です。保護者の皆様にはぜひ本番での子どもたちの姿や作品を、「そこに至るまでの準備」にも思いを馳せながらご覧いただき、お子さんの努力や成長を称えていただけると幸いです。

最後に・・・私はこの4月から、教務主任という役割を担っています。簡単に言うと学校の様々な「準備」をする役なのですが、この「準備」に深く携わるようになったことで一層強く感じるがあります。それは、保一小の先生たちは子どもたちのための準備を惜しまない「準備のプロ集団」だということです。手前味噌ですが、中で見ていて本当に日々そう感じます。私が見落としていた準備も、必ず他の先生が気付いてカバーしてくれます。そして、保護者の方々も同様に、子どもたちのために様々な準備を惜しみなくしてくださり、その支えあって子どもたちは学校で生き生きと学んでいるのだと実感しています。

これからも、子どもたちのよりよい成長のために、学校と家庭が共に「準備の一大プロ集団」であり続け、それを誇りに感じられるような学校を目指していけたらと願っています。